信州教師塾Ｂ　第２回
「 リフレーミングと学級経営 」

～少し違う見方・考え方（フレーム）を試すだけで、コミュニケーションが円滑になる～

１１月５日（火）に「信州教師塾Ｂ」２回目の研修会が、上伊那教育会館講堂で行われました。講座には２１名の受講者が集いました。今回は、「リフレーミングと学級経営」をテーマに、宮野尚先生（信州大学教育学部助教）を指導者にお迎えしました。

宮野　尚　先生

講座は、「とある小学校５年生の学級での出来事」を例にして、「自分がこの学級の担任だったらどのような手を打つか」「そのような手を打とうと思った理由は何か」について考え合いました。５人グループでお互いの考えを共有したり、疑問点を話し合ったりしました。そして、「自分には、どのようなことを[問題]と捉え、どうなることを理想的な[解決]と考える傾向があるのか（自己省察）」を見つめ直しました。

《　研修の様子　》

《　受講者の感想（抜粋）　》

ひとつの事例に対して、何を問題とするか、何が解決なのか考えることで、見方や受け取り方も変わる。普段クラスで落ち着かない子に対して、授業中はこうあるべきというフレームでとらわれていたと感じた。明日からは、別の見方、受け止め方も考え、その子自身の困り感や周りの子の見方など考えていきたい。
自分以外の先生方の考え方、「フレーム」に触れて考えが広がった。自分のフレームが偏っていることに気がついた。グループや全体の場での共有で改めて一人一人違ったフレームがあり、どれも大切で不必要なものはないと感じた。